



泥んこだけど、楽しいね!

5月は市内各地で田植え作業にいそしむ人たちの姿が見られました。岩谷小学校の5年生は、素足で水田に入って昔ながらの手植えを体験。ぬめぬめした感触に歓声を上げ、慣れない中腰での作業に苦戦しながらも、一株ずつ丁寧に苗を植え込みました。(5月23日)



「カウンターだからといって気負わずに来てください」と話す加藤さん

《第72回》
手間を惜しまず、季節の味を大切に

本荘地域 寿司竹

《表尾崎町6番地10 ☎22-0753》
◇Twitterもご覧ください (@sushitakehonjo)

■あらし
先代である父の稔さんが昭和44年に開業した店。幼いころから店を見て育った章さんは、高校卒業後、迷うことなく寿司職人になる道を選んで神奈川県で修行した。その後県内のホテルなどの料理部門で経験を積み、平成22年から店を継いだ。店内はカウンター、小上がりのほか、24人まで入ることができる座敷も完備。

店主の加藤章さん(49歳)にお話を伺いました。

笑売繁盛!!
広報紙×ケーブルテレビ共同企画

このコーナーでは、市商工会に加盟している市内各地域の「人気のお店」、「頑張る会社」を紹介しています。今回は、本荘地域の「寿司竹」です。



平目の昆布締め。煮たり漬けたりと、ひと手間加える江戸前寿司も腕の見せどころ

えび穴子は2日間ほど煮詰めてタレを仕上げるし、白身魚のすり身を合わせた卵焼きは一本焼くのに約1時間半かかる。それでもお客

■料理
寿司を中心とした和食を提供。季節の味わいを楽しんでもらいたいので、旬の食材の仕入れに力を入れている。これまでに培った人脈を生かして、秋田や象潟、松ヶ崎など多方面のルートから魚を仕入れる。漁師から「いいものが揚がった」と直接連絡をもらって駆け付けられることも。それぞれの素材のおいしさを最大限に引き出せる調理法を考え、手間を惜しまずに作る。例

座敷は椅子席にして、ゆっくり食事を楽しんでもらえようになっている。



ランチの「三段弁当」は見た目も華やか。みそ汁とデザート、食後のコーヒーも付く

さんの「おいしい」の一言が何よりの楽しみ。

■これから
自分の店を県内外の人にもっと知ってもらい、由利本荘市の食の玄関口になればいい。おいしいものには人を呼び込む力があると思うので、飲食店を営む仲間と協力して、由利本荘を「食で人を呼び込めるにぎやかなまち」にするのが目標。

■よろこび
「こんなの食べたことがない」「苦手なものがここで食べたら食べられるようになった」と喜んでもらえること。また、お客さんが新たなお客さんを連れて来てくれるなど、人と人がどんどんつながっていくのが見えるとてもうれしい。

「ゆりほんぼう」情報コーナーの放送は6月6日(木)の番組もお楽しみください。

寿司竹
○営業時間/17:30~
※お昼の営業は完全予約制
○定休日/月曜日

一品一品にこだわりが詰まった寿司竹の料理の数々。ホテル時代のお客さんが今も市外から通ってくれるといい、味や技への信頼の厚さを感じられます。カウンター越しに見える手仕事も鮮やかで、その職人技に思わず見入ってしまいました。オリジナルの卵焼きも、しつとりジューシーでふわふわの、他とはひと味違った口当たり。ここでしか味わえない特別感に加え、加藤さんの気さくな人柄もリピーターを呼び寄せているのでしよう。



卵焼き(上)と三段弁当の握り寿司(下)

読者プレゼント 6/21(木)まで

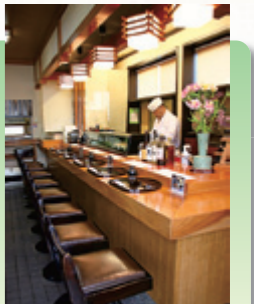
広報クイズ 笑売繁盛プレゼントつき!

寿司竹から、「卵焼き2切れサービス券」を10人にプレゼント!
■応募資格/市内にお住まいの方(応募は1人1通)。クイズの答え(2問)と広報紙に対するご意見やご感想など「おたより」を添えてお申し込みください。

- Q1 ことしの黄桜まつり健康マラソン、参加者数は?
1. 90人
2. 190人
3. 290人
- Q2 本市の現在の消防団協力事業所数は?
1. 30事業所
2. 40事業所
3. 50事業所

ハガキ、ファクシミリ、電子メールでご応募ください。

〒015-8501 尾崎17
「読者プレゼント」係



※個人情報記載内容の確認、プレゼントの発送のために使用し、この目的以外には使用しません。

本荘地域の小学校適正化に向け

学校環境適正化検討委員会 「第一次提言書」提出

本市誕生以降人口減少が続く中、市内の児童・生徒も同様に減少が進み、今後も年間約100人ずつ減少していく見込みです。

市教育委員会では、平成18年に第一次の学校環境適正化検討委員会を組織し、二カ年にわたる調査研究を経て「本荘地域を除き、1地域、1中学校・1小学校」を基本方針とする『学校環境適正化計画』を策定し、各地域の学校再編を進めてきました。引き続き平成27年には、第二次の学校環境適正化検討委員会（委員長：秋田県立大学システム科学技術学部 松本真一学部長、委員25人）を組織。主に本荘地域の適正な学校環境構築に向け、コミュニティ・スクール（CS）関係者、保護者、地域住民との意見交換やアンケート調査などを交えながら、通算12回にわたる委員会協議を行ってきました。このほど二カ年の調査研究に基づく「第一次提言」がまとまり、松本委員長から佐々田教育長に提出されましたので、その概要をお知らせします。



地域の宝物 子どもたちの未来のために

教育格差が生じない施策を

第一次提言にあたり、松本委員長は冒頭で「今後、望ましい学校規模の中で学ぶ児童生徒と小規模校や複式学級で学ぶ児童生徒との間に、環境的要因による教育格差が生じない施策を講じるよう強く要望する」と訴えています。

提言書を提出する松本委員長（右）



引き続き、検討を進める

検討委員会では今後も市民との意見交換を行いながら、年内に第二次提言をまとめる予定です。教育委員会では検討委員会の提言を十分に検討し、今後「第二次学校環境適正化計画」を策定することにしています。

第一次提言（概要）「本荘地域の適正な小学校のあり方」

今後予定している第二次提言を視野に入れ、このたびの第一次提言においては、4つの選択肢を示すこととする。この4つの選択肢は、適正なあり方における方向性を示すものでもあり、同時に時間軸を考慮した場合、第1から順に第4にかけて、今後将来適正な姿に近づくべき通過点としても見ることもできる内容である。時間軸については、次回の第二次提言に向け、今後さらに検討を重ねていくこととする。

第1の選択肢

全ての小学校6校を当面存続させ、それぞれ地域力を活かした特色ある学校づくりに努める。ただし10年以上先の将来を意識し、地域社会の持続性をも視野に入れながら、継続して適正な学校のあり方を検討していくこととする。

第2の選択肢

当面児童の減少率が大きい、また今後10年以内に100人以下の小規模校となる見通しの学校を統合し、隣接校との児童数格差を解消するとともに、複式学級を解消する。

第3の選択肢

児童の減少率が大きく、また今後100人以下の小規模校となる見通しの学校を統合し、本荘地域における小学校規模の均衡を図る。

第4の選択肢

今後の児童数の減少が全ての学校に共通に及ぶことにより、将来全ての学校の規模が縮小することを見据え、今後将来、本荘地域3中学校を維持しながら均衡ある小学校を構成していくため「1中学校区、1小学校・1中学校」を基本目標とする。

提言

児童数の減少が今後5年以上続くことを踏まえ、学校間の教育環境の格差を解消し、規模、質ともに均衡ある学校を構築していくためには、本荘地域における将来に向けた望ましい学校の姿として「1中学校区、1小学校・1中学校」を基本方針に据えた「第4の選択肢」を将来的目標として進むことを望むものである。ただし、現在の地域住民や保護者の意見を踏まえ、第4の選択肢に対する市民意識の成熟には今後時間を要すると考えることから、中長期的な視点に立ち、段階を経た再編も視野に入れて検討すべきである。

皆さんの意見を

お聞かせください

保護者や学校・PTA・CS関係者、地域の方など多くの市民の方々の意見を今後の学校再編に生かすため、「これからの学校を語る会」を開催します。第一次提言を踏まえた皆さんの声をお聞かせください。お住まいの地区に限らず、どの会にも何度でも参加できます。事前申し込みは不要です。



これからの学校を語る会 ～学校再編を考える～ 開催日程 (主催：学校環境適正化検討委員会)

- 6月11日(月)：カダーレ [本荘地域]
 - 6月15日(金)：カダーレ [東中学校区]
 - 6月18日(月)：ウッドィホールこだま [石沢地区]
 - 7月5日(木)：小友公民館 [小友地区]
 - 7月12日(木)：子吉公民館 [子吉地区]
- ※いずれも18時半～20時

問い合わせ先

学校環境適正化検討委員会
事務局（教育総務課内）

☎ 32-1305

※平成31年度からの学級数については、国の標準学級数を計上

児童数	小学校児童数・普通学級数推計 (平成28年度～36年度)									
	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H30～36増減
新山小	800	800	802	800	770	732	710	690	657	-18.1%
鶴舞小	412	416	418	391	384	349	357	352	333	-20.3%
尾崎小	538	537	547	540	528	511	508	470	458	-16.3%
子吉小	181	192	189	186	186	178	171	170	181	-4.2%
小友小	119	118	118	120	122	107	101	93	80	-32.2%
石沢小	73	63	63	60	49	43	35	35	30	-52.4%
矢島小	176	168	166	154	145	140	137	134	127	-23.5%
岩城小	240	229	225	209	210	196	178	169	157	-30.2%
由利小	218	212	203	199	177	173	160	154	156	-23.2%
岩谷小	174	178	178	176	176	170	143	130	124	-30.3%
大内小	124	113	107	104	103	101	96	99	91	-15.0%
東由利小	123	109	109	101	112	106	90	91	85	-22.0%
西目小	333	320	317	289	292	269	237	223	194	-38.8%
鳥海小	139	123	110	98	100	101	96	98	95	-13.6%
計	3650	3578	3552	3427	3354	3176	3019	2908	2768	-22.1%

地域の安全・安心を支える

「消防団」 団員を募集しています

問い合わせ先
消防本部総務課
☎22-4282



消防団ってなんだろう？

○どんなことをするの？

「消防団」というと、消火活動を思い浮かべる方も多いと思います。しかし、消防団は消火活動の他にもさまざまな活動を行っています。

災害時の救助活動や水防活動のほか、日常では学校などで防災活動や救命講習会を行うなど、地域の皆さんに火災や災害に対する啓発活動をするのも消防団の大切な仕事です。

○消防署とどう違うの？

消防署は職員が消防署に常駐して消防活動に従事しています。

これに対し消防団は、それぞれ普段は自分の仕事を持つ方が団員として活動する、非常勤の公務員です。火災や大規模災害が起きれば、自宅や職場から現場に駆け付け、対応に当たります。消防団員の強みは、ほとんどの場合が地元の方であることです。地形や道路状況、地域の事情に精通し、いざと

いよときの機動力が期待されています。

○どんな人が入れるの？

市で設置する「由利本荘市消防団」には、本部と市内各地域に8分団があり、1600人以上の方が活躍しています。

【入団資格】

・市内に居住、勤務または通学する18歳以上の健康な方

【身分など】

・非常勤特別職の地方公務員となります。

・条例に基づき、年報酬、出動手当を支給します。

・活動に必要な被服を貸与します。

・公務災害補償、退職報償金（5年以上）、表彰などの制度があります。

◇女性や学生も大歓迎です！

消防団では、女性団員も活躍しています。災害の啓発活動などでは「女性の消防団員だから小さな事でも相談できた」という声もあり、女性ならではの仕事もたくさんあります。

また「学生時代に何かに打ち込みたい」という学生も大歓迎です。市では、就職活動の自己PRに役立ててもらえるよう、大学生や専門学校生で1年以上消防団に所属した方に「市学生消防団活動認証証明書」を発行しています。地域との関わりが深まるのも消防団に所属する醍醐味の一つ。少しでも興味があれば、気軽にご相談ください。



ご存知ですか？ 「消防団協力事業所表示制度」

消防団は地域における消防防災のリーダーとして、地域に密着した重要な役割を果たしています。消防団員のスムーズな活動を推進するためには、就業先である地域企業の理解や協力が不可欠であり、市では「消防団協力事業所表示制度」を推進しています。

本市で活動している消防団員の約8割がサラリーマン団員という状況にあります。消防団活動に積極的に協力している事業所に対し、表示証を交付しています。協力事業所では表示証を自社ホームページなどで公表することもでき、地域への社会貢献が広く認められ、消防防災活動を通じて地域の安全を推進する事業所として信頼性の向上につながっています。

- 認定基準 消防法令上の違反がなく、次のいずれかに該当する事業所を認定します。
- ① 3人以上の団員が在籍している事業所
 - ② 勤務時間中の出勤・訓練などに配慮している事業所
 - ③ 災害時、事業所の資機材を消防団に提供するなど、協力ができる事業所（消防団員の在籍は問いません）
 - ④ その他、地域の消防防災体制の充実強化に寄与し、特に優良であると認められる事業所
- ※現在40の事業所が認定されています。一つでも該当する項目がありましたらお問い合わせください。

消防団協力事業所表示証認定事業所

平成30年5月14日現在

事業所名	地域
株式会社吉田工務店	本庄
天寿酒造株式会社	矢島
菊地建設株式会社	大内
秋田ルビコン株式会社	東由利
株式会社大友組	鳥海
山勇建設工業株式会社	本庄
矢島小林工業株式会社	矢島
矢島木材乾燥株式会社	矢島
秋田県心身障害者コロニー	西目
株式会社秋田新電元	本庄
山科建設株式会社	矢島
矢島建設株式会社	矢島
村岡建設工業株式会社	本庄
社会福祉法人由利本庄市社会福祉協議会	本庄
株式会社三浦組	西目
高橋秋和建設株式会社	西目
山二建設工業株式会社本庄営業所	本庄
丸大機工株式会社	にかほ市
株式会社本庄消費	本庄
株式会社大沼組	東由利
株式会社三浦組	本庄
アルファ・エレクトロニクス株式会社秋田工場	大内
伊藤工業株式会社由利本庄支店	大岩
加藤建設工業株式会社	本庄
木内組土建株式会社	本庄
小坂工業株式会社	鳥海
株式会社共立設備	本庄
有限会社東北プロパン	本庄
株式会社鳥海リース	本庄
株式会社堀井建設	本庄
有限会社本庄クリーンセンター	本庄
佐藤建設株式会社	鳥海
A L S O K 秋田株式会社本庄支社	本庄
長田建設株式会社	本庄
由利組合総合病院	本庄
由利本庄市休養宿泊施設鳥海荘	鳥海
大東精機株式会社	東由利
秋田精工株式会社	西目
秋田しんせい農業協同組合	本庄
由利工業株式会社	西目

以上40事業所（※並びは申請順）

協力事業所の声



鳥海分団第3部部長
三船 一幸さん
(54歳・鳥海町上川内)

地域のために役に立つことをしてみたいという思いがあり、先輩から誘われて入団しました。団員として活動する上で、会社はもちろんのこと、同僚たちも理解して快く送り出してくれる環境をととてもありがたく思っています。

今後も地域の安全安心のため、災害などが起こらないよう啓蒙活動に取り組み、新規団員の勧誘にも努めていきたいと思っております。



佐藤建設(株)代表取締役
佐藤 安隆さん
(65歳・鳥海町上笹子)

先代が長年消防団に在籍していたこともあり、社会貢献活動の一環として申請しました。

現在5人の社員が消防団に在籍していますが、消防団に加入している人は「地域のために」という考えを持っており、その思いが仕事上にも生きていけると感じます。

招集などがあつた場合、消防団の社員が携帯のつながらない場所においても事務担当が連絡しに行くような体制をとっており、今後も地域の役に立てるよう協力していきたいと思っております。